

平成 30 年 8 月 27 日

宇都宮市議会 日本共産党

荒川 恒夫 様

福田久美子 様

教育委員選任にあたっての公開質問状について（回答）

1 教育委員会委員としての抱負について

「今の子どもたちが、自分が大人になった時、周りの子どもたちから手本にされるような大人になれるのか」、私はこうしたことを常に考えながら子どもたちの育成、学校教育の支援活動に取り組んでおります。

現在、様々な場面において家庭や地域の教育力の低下が指摘されております。子どもの第一義的な責任者はもちろん家庭であります。昨今では、個人の価値観も多様化していることから、私たち地域の大人が、家庭における保護者の意識を変えていくことは、難しい部分が多いと感じております。

そのような中で、地域の大人としてできることは、今の子どもが将来、周りの手本となるような大人になれるよう、地域全体で育んでいくことであり、地域が全体で、情熱や愛情を持って子どもを育成していくことができる環境をつくることであると思っております。

また、子どもの育成においては「心の教育」が重要であると考えております。

周りの大人たちが子どもの行動などについて何か指摘をしたとき、子ども自身がそれを悪いこととして捉えるのではなく、前向きに捉えられるような、心が強く、思いやりを持った子どもを育んでいくことが大切です。

人生は、うまくいくことばかりでなく、失敗することの方が多い。そんな時に、前向きに、失敗したことを乗り越えられるような、失敗を活かしながら次に進むことができるような心のたくましさの涵養に取り組んでまいりたいと考えております。

最後になりますが、私はこれまで教育に関する様々活動をさせていただきました。教育委員に就任いたしましたら、これらの経験を十分に活かし、また、今後も地域や保護者など教育に携わる方々の声を伺いながら、宇都宮市の教育行政の発展に微力ながら寄与してまいりたいと思います。

2 本市の学校教育で①評価すべき点 ②課題となる点について

まず、学校は家庭や地域等と連携・協力して、教育活動の充実を図ることが大切だと思っております。本市の学校教育では、全校に設置した「魅力ある学校づくり地域協議会」が重要な役割を担っており、地域の人材を有効に活用することは、「地域とともにある学校づくり」を進める上で、有効な手段であるとともに、本市の強みであり、評価されるべき点であ

と考えております。

次に、現在の学校現場では、子どもたちやその保護者への対応のほかに、様々な事務処理などの業務が多く負担になっているとの声も聞いており、そのような状況が大変危惧しております。今後、「魅力ある学校づくり地域協議会」を活かしながら、家庭や地域の教育力を高めていくとともに、地域が学校の教育活動を支援することなどを通して、学校にかかる負担を少しでも軽減させることが必要であると考えております。

3 道徳の教科化について

私は、人が社会の中で生きていく上では、子どもの頃から、社会の一員として守らなければならない決まりや行動の仕方を身に付けるとともに、命の尊さを知り、自己肯定感を高め、友達や地域の人など他者への理解や思いやりの心などを育てていくことが大切であり、学校における道徳教育は非常に重要であると考えております。

従いまして、今回の道徳の教科化につきましても、これまで以上に現場の先生方が創意工夫をしながら、子どもたちの道徳性の育成に努められることが望ましいと考えております。

4 地域における人材育成と登用について・現在就任している役職について

現在就任している役職について、教育委員会評価委員と子どもの家・留守家庭児童会に係るあり方に関する懇談会委員については退任したいと思っておりますが、それ以外の役職については、教育委員の職務に支障のない範囲で続けていきたいと考えており、子どもたちや地域の方々と直接かかわる中で得た経験を、宇都宮市の教育行政にも反映していきたいと考えております。

また、私は予てより、今の子どもたちが将来、周りの手本となるような大人になれるよう、地域全体で育てていくことが重要であると考えておりますことから、今後は、地域での活動をサポートする役割を担いながら、活動を担う人材を育成してまいりたいと考えております。

5 市立図書館の指定管理者制度について

市立図書館への指定管理者制度の導入につきましては、様々な意見があるものと理解しております。

一方で、宇都宮市の図書館運営における指定管理者制度の導入には一定の効果が上がっているということも伺っているところであります。

こうしたことから、本市における市立図書館への指定管理者制度の導入に関しましては、これまでの導入事例における成果などを踏まえながら、今後の在り方につきまして、これから教育委員の活動の中で勉強させていただきたいと思っております。

伊藤 三千代